



ロータス東海の ちいらしっこ通信



2023年4月号

今月のちよつといひ話

天使のいもこ

僕には、天使の妹がいます。夜中、僕は、お父さんと病院の待合室に座っていました。隣にいるお父さんは、少し怖い顔をしています。いつも人でいっぱい病院は、夜中になるとこんなに静かなんだなあと思いました。

少したつてから、目の前のドアが開いて、車いすに乗ったお母さんと看護師さんが出てきました。

僕が車いすを押すと、お母さんは悲しそうに、歯を食いしばった顔をして、僕の手をぎゅつと握りました。

僕は一人っ子なので、妹が生まれてくるのがとても楽しみにしていました。お母さんのおなかに妹がきたときから、まいにち、ぬいぐるみでおむつ替えの練習をしたり、妹の名前を考えたりして過ごしました。

ご飯を食べたり、おしゃべりしたり笑ったり、公園で遊んだり、テレビをみたり、いまでも三人でしていたことを、これからは四人でするんだなあと思っていました。

でも、春休みの終わり、トレでぐったりしながら泣いているお母さんをみて、これから



三人なのかもしれないとおもいました。さみしくて、悲しかったけど、それを言ったらお父さんとお母さんが困ると思つて言えませんでした。ぽかぽかの暖かい日、僕たちは、善行寺さんへ行きました。妹とバイバイするためです。初めて四人でお出かけをしました。「また、お母さんのおなかに来てね。今度は生まれてきて、一緒にいろんな事、しようね。」と、手紙をかきました。

僕は、手をあわせながら、僕のあたりまえの毎日は、ありがとうの毎日なんだと思います。

お父さんとお母さんがいることも、笑うことも、食べることも、話すことも、全部ありがとうなんだとおもいました。それを教えてくれたのは、妹です。僕の妹、ありがとう。(いつもありがとう作文コンクール優秀作品)

ロータス祭りクラブ

弘前さくらまつり



弘前城に最初に桜が植えられたのが1715年、弘前藩士が京都の嵐山から二十五本のカスミザクラなどを持ち帰ったのが始まりだと伝えられています。

そして時代は移り1871(明治4)年の廃藩後、城跡が荒れ果てたのを見かねた旧藩士の内山覚弥が1880(明治13)年に自費で桜20本を植えたと言われています。その2年後、同じく旧藩士の菊池楯衛は、当時ではまだあまり知られていないソメイヨシノを1000本寄贈、植栽しました。しかし明治維新後で混沌とした当時、「お城を行楽の地にするとは何事か」と植えた苗木が折られたり、引き抜かれることもありまし

昭和に入り、1956(昭和31)年には元市議会委員の福士忠吉がソメイヨシノ1300本を寄贈、外濠もすべて桜で埋め尽くされ、現在の弘前公園の桜の姿が整えられました。さらにこの年から観桜会のポスターを版画の巨匠・棟方志功に依頼し、1970年までに6枚のポスターが描かれました。1961年には「弘前さくらまつり」と改称され、翌年には会期が4月22日から5月5日に固定されました。会期は、その後花の咲き具合を受け変化しています。(桜の咲き具合によつて会期の前後に準まつり期間を設けている年もあります。)

【頭の体操】今月のなぞなぞ ①右と左ではどちらが強いでしょう? ②お年寄りへの対応が一番だという果はどこ? ③いつも道端に置き去りにされてしまう新聞は何新聞? ④どんなに頑張っても新記録を出せない魚ってなあれ? ⑤カレー粉を集めるコウモリが住んでいる国はどこ?

ロータスクラブはCO2削減に取組んでいます



